

## 白山・荒島岳

【山行日】 2014年7月12～14日(土～月)

【集合場所】 お迎え構築 AM3:00 清水→仙石→諏訪→前沢

【交通】 車1台、シャトルバス

【費用】 29,100 円(交通費 13,000 円、宿泊費 8100 円、5000 円、  
シャトルバス 500 円×2、その他)

【メンバー】 CL:仙石、諏訪、清水敬、前沢、山田

【コースタイム】

12日 仙石宅3:00＝諏訪宅＝前沢宅＝佐野藤岡IC＝北関東道＝上信越道＝北陸道＝白山IC＝  
市ノ瀬9:30～9:50＝別当出合10:10～10:30＝中飯場11:40～12:00＝  
甚之助避難小屋13:25～13:35＝黒ボコ岩15:00＝室堂15:50(泊)



雲の中であった。市ノ瀬の駐車場には入れず、上の橋を渡った先の臨時駐車場に誘導される。橋のもとにシャトルバスが止まるというのでまあいいか。

別当出合まで20分バスに揺られる。身支度を調べ、ストレッチ。空の半分以上は青空だ。期待できる。すぐに大吊橋を渡り、砂防新道に入る。ちょっとの間は緩やかに上がるが、すぐに急登になる。さすが白山である。急登も平らにした石を階段状に積み上げ、延々と続いている。開山以来1200年幾多の先人たちが一つ一つ積み上げたのだと思うと、その信仰心とその裏側の苦しい生活を思わざるを得ない。

1時間ほどで中飯場につく。もうすぐ昼になる。腹ごしらえをすることにする。休憩舎の前に水が出ているが、飲用不可とのこと。

次は甚之助避難小屋までの急登。別当谷と甚之助谷に挟まれる急峻な尾根、丹念に石段を拾って登る。不動滝がだんだん下になってくる。苦しい登りである。甚之助避難小屋は平成10年に新築されたりっぱな小屋。小屋の前に出ている水は飲めるそうだ。

ここからは、別当谷の上部を渡る部分に雪渓が残っている。慎重に超えて、また、石段の急登が続く。苦しい登りには、花たちが慰めてくれる。大輪のキヌガサソウ、サンカヨウの花と実、エンレイソウ、ミヤマキンポウゲ、コイワカガミ、カラマツソウ、キバナノコマノツメ……。黒ボコ岩の手前には延命水がわいている。一息入れて、黒ボコ岩に上がる。ここで、やっと白山の山頂とおぼしき円頂が見える。

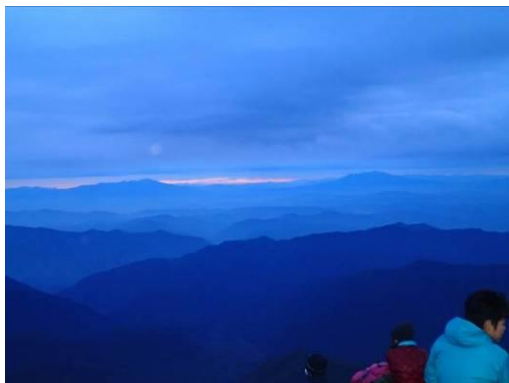


弥陀ヶ原をゆったりと上り最後の急登をクリアし、室堂ビジターセンターの前にやっとでる。とりあえず受付を済ませ寝床を割り当てられる。幅60cm位、今日は一階部分のみらしい。センター前の小さな池の周りにクロユリが花を開いている。早速、ぱちり。



今日みんなのがんばりに生ビールで乾杯！

13日 3時起床 3:50発＝御前峰4:40～5:15＝千蛇ヶ池6:00＝  
室堂6:45(朝食)～7:50＝黒ボコ岩＝殿が池避難小屋跡—  
別当分岐10:00～10:05—別当出合12:20～12:30シャトルバス＝  
市ノ瀬11:50＝勝原(そば屋で昼食)＝民宿林



朝3時半頃どんどんと太鼓が鳴っていたような気がする。防寒着と水、カメラを持って、いざご来光を目指して、暗い中を上り始める。すでに山頂に光の列が続いている。ほとんどが平らな岩が敷き詰められていて上りやすい。でも、朝一番の登りはきつい。

次第に東の空が白みかかる頃に山頂の一角に立つ。ご来光を待つも、「ご来光は雲の中のように」の神主の声、それでも、全員で万歳を三唱して登頂をみんなで祝福する。山頂の白山神社にお参りする登頂者も多い。我々は、御前峰の石柱で写真を撮ろうと列

に並ぶ。後ろのグループの人にシャッターをお願いする。よく見ると明るくなった東の空に、御嶽山、乗鞍岳、穂高連峰、槍・・・、立山、剣山が確認できた。ご来光は残念であったが、これだけの展望が得られ満足しなければならぬ。

御前峰からは真ん前に剣が峰の岩峰とその間の紺屋が池、池は半分雪渓に覆われている。急なガレ場をジグザグに下り、油ヶ池との間に降りる。少し上りながら進むと右手が翠ヶ池、池の中に雪が残っている。道ばたの岩には、イワウメ、アオノツガザクラ、ツガザクラ、イワヒゲと小さな花たちが命を燃やしている。こんなところにと愛おしくなる。

翠ヶ池からは左手の雪渓を上り、千蛇ヶ池への登山道に出る。自然観察員に引率された一団がいたのでついて行ったが、一人だったら迷うところだ。千蛇ヶ池は全面が雪渓に覆われていた。室堂へは山腹をトラバースしてゆく。一カ所の雪



渓は下りでちょっと緊張した人もいたようです。この道にはクロユリの群落があったのですが、残念ながらすべて蕾み、これが開花したらすばらしい光景となるだろうと頭の中に想像する。

朝食を取り、7:50下山開始。ぽつりぽつりと雨が落ち出すが、そんな降りにはならないだろうと、雨具を付けずに歩き始める。黒ボコ岩から観光新道を下る。この道は細い尾根の上を急降下で下る。ミヤマキンポウゲ、ミヤマキンバイ、ニッコウキスゲ、ダイモンジソウ、



クルマユリ、ヒメサユリと高山植物は多い。次第に、地雨となり、上着を着、別当分岐からは、本降りになりズボンも着けて完全装備となってしまう。こんな中を上ってくる人もいる。下りでよかった！

長い長い下りを下りきり別当出合。10分後にシャトルバスが出るということなので、急いで雨具を外して乗車した。

勝山のそば屋に入り、名物のおろしそば、ソースカツ丼のセットでお昼とした。勝原の民宿林は期待？に反して、夕食がとてもよかった。お母さんの気持ちがよく伝わってきて Good でした。

14日 5時起床 おにぎりを頂いて勝原スキー場第3駐車場へ 6:40発—  
シャクナゲ平9:50～10:00—荒島岳11:12～11:56—シャクナゲ平12:45～12:55—  
スキー場駐車場15:00～15:20＝福井IC＝北陸道＝上信越道＝北関東道＝  
佐野藤岡IC＝小山23:00



朝6時頃まで雨が残るとの予報。4時起床の計画を5時起床に変更することにして、就寝した。

5時に起きてはまだ外は雨である。山には雲がまとわりついている。でも、基調は回復傾向のはず、様子を見ながら出発することにする。とりあえず雨具を付けて6時に登山口駐車場に向かう。今日は月曜日にも関わらず5台ほど駐車して、出発の準備をしている。我々も準備する。雨はもうほとんどやんできた。結局雨具を脱いで出発することにした。

まずはスキー場内のコンクリート舗装の急登。スキーゲレンデとしてはいい斜面である。でも、まっすぐ上るのには、それも朝一番ではつらい。ゆっくり上っていると、次々と追い越される。山道に入ってもゲレンデ内は急登の連続だ。1時間ほどでリフトの大歯車のあるゲレンデ最上部につく。



ここからはブナの林の広い尾根の急登になる。途中、トトロの木（大きなこぶのあるブナだ）というのもある。中休からの登山道と合流するシャクナゲ平はこびろい広場になっており、ゆっくり休む。シャクナゲ平から

は樹林が茂る急峻な尾根道になる。もちがかべと記された急登は特にきつい。ロープ、鎖が下がる。濡れた岩が滑りやすい。ブナが減り、ダケカンバやツツジ類に林相が変わってくる。先に山頂らしきピークが現れるが、何回もだまされる。やっと前荒島と書かれた小さな白い杭に、あと少しと気を取り直す。



さらに何度かの急登を上り緩やかになると、荒島岳神社の小さな社が見えて、山頂に着く。白山を含め360度の大展望とのことで、立派な山名方位盤が一等三角点の脇に据えら

れているが、残念ながら展望はない。わずかに大野の町とおぼしき家々と青い田んぼが雲の切れ間から望めるのみであった。

下りは、さすがに早い。でも足の筋肉には堪える。クッションを効かせて降りる必要がある。シャクナゲ平を過ぎる頃から、また雨が降り出す。仕方がないので雨具を付ける。ブナの林なので直接雨は降りかからないけれど、湿気は相当なものだ。今回の山行も3日目、疲れの出る頃だ。やっと、ゲレンデ最上部。ここからのゲレンデの下りも最後の踏ん張りでクリアです。



深田久哉の思いが特に強い2つの名山、白山が1500m、荒島岳が1200mを登らせる大きな山であることを体感した山旅でした。

仙石 記